

西脇市消費生活センター

☎22-3111(防災安全課内)

No.132

訪問販売お断りステッカーをご利用ください

訪問販売によるトラブルを防止するために「訪問販売お断りステッカー」を玄関先に貼ることは、強引な勧誘をけん制し、消費者被害の未然防止につながります。ステッカーを無視して契約を勧誘することは、兵庫県消費生活条例に違反します。また、「契約をしない意思」を示した消費者への契約の再勧誘は特定商取引に関する法律で禁止されています。

消費生活センターでは「兵庫県弁護士会作成ステッカー」や玄関内で使う「お断りうちわ」を防災安全課窓口で配布しています。玄関のインターホンの近くにステッカーを貼り、必要のない訪問販売には「お断り」の意思表示をしましょう。必要のない訪問販売にあった時は「いりません」「帰ってください」とはっきり断りましょう。もし契約してしまったも、訪問販売では8日間のクーリング・オフで契約をなかったことにできます。8日間が過ぎても契約の解除や取り消しができる場合もあります。あきらめずに消費生活センターにご相談ください。

おもてなしコラム 6

西脇市では、平成28年1月に「日本のへそ西脇地域食材でおもてなし条例」を施行。地域食材の魅力について認識を深め、その魅力を広く発信し、本市にさらなるにぎわいの創出を目指しています。

■問合せ 農林振興課(市役所内線323)



モモン スラン
坪井美佐姫さん

モモン スランのおもてなし

当店は自家栽培の野菜を使ったランチや入れたてのコーヒー、紅茶、ハーブティーをお出ししている小さな一軒家カフェです。私は「ジュニア野菜ソムリエ」やハーブの知識の資格を生かして、地元で採れた食材のおいしさを味わえるメニューにこだわっています。そんな中で、西脇市の名産でもある黒田庄和牛に出会いました。意外にも地元の皆さんが口にする機会は少ないと聞き、もっと手軽に楽しめる方法はないかと考えました。

そこで考案したのが「黒田庄和牛のローストビーフサンドイッチ」です。肉質の柔らかい部位を使用して、たっぷりの野菜と一緒にサンドしました。仕上げのバターには手作りのハーブをブレンドして、お肉と野菜のおいしさが引き立つようにしました。お客さんの中には「おいしかった!また食べたい!」と何度も足を運んでくださる方もいらっしゃいます。今後も、より多くの方に召し上がっていただき、「西脇やっばええとこ!」と感じていただけたらと思います。



ICT教育に取り組む芳田小学校の児童ら



市内統一学力調査(西脇南中学校1年生)

好きです!! にしわき わたしのふるさと

今、この時を輝いて生きる
一次世代につなぐ、心豊かな人づくり、まちづくり—

教育委員会や学校園の情報をお知らせします。

自ら伸びゆく子どもたちを育てる 〜もっと知りたい!〜

「本年度取り組みの実施状況」

■市内統一学力調査事業

全国トップレベルの学力を目指すとして、4月に小学3年〜5年生が国語・算数、中学1・2年生が国語・数学の学力調査を実施しました。1学期末に各学校では面談を行いながら個人票(調査結果)を返却し、一人ひとりのつまづきポイントや弱点補強等について説明を行いました。

2学期以降、調査の検証・分析を児童生徒の日々の学習や授業改善に生かしながら、一人ひとりの児童生徒の強みをさらに伸ばし、弱みを克服していく機会とします。

平成27年から2年間、タブレット型パソコンを試行導入している芳田小学校では情報活用能力や情報リテラシー等を育てる授業を実施しています。2学期以降は、教科での活用方法等を検証し、「子どもたちがわかる・できる」授業を研究します。

その他、「いきいき体力づくり推進事業」「表現のプロの技を学ぼう事業」等を実施します。今後の教育活動へのご理解とご協力よろしくお願ひします。

■市長ふるさとを語る事業

市内小学6年生・中学2年生を対象に、「故郷にしわき」の良さを片山市長が語る特別授業を7月から平成29年2月まで計11回実施します。子どもたちが故郷の良さを再認識するきっかけとすることが目的です。地場産業・特産品・西脇グルメなどの西脇の良さや特徴を説明し、どんなまちにしたいかをテーマに、子どもたちの自由な発表の場としています。

■ICT教育推進事業

加齢に伴う認知機能や運動機能の衰え、老衰に伴う記憶力の減衰等といった理由で、第一線を退く高齢者は多いですが、その豊富な経験で、学習による知識や練習による技能を超えた成果を生み出す人もいます。若者は高齢者から学ぶべき点は学び、また次の世代に伝えてほしいです。高齢者にとっての幸せとは

心のスケッチ

91

人権教育室コラム

高齢者との関わりについて

9月の第3月曜日は敬老の日です。毎年、各地でさまざまな行事が催されています。敬老の日は、昭和22年多可町(旧八千代町)で行われた敬老行事がきっかけとなっています。9月15日を「としよりの日」にしようとする敬老・福祉の県民運動から生まれてきました。以前は、高齢者を「年寄り」や「老人」と言っていました。

認知症、寝たきりになりやすい人への介護疲れや虐待などから高齢者に対するさまざまな思いが表れてきたため、「年寄り」を「より経験豊かな」という意味を込め、「高齢者」として使うようになってきました。

加齢に伴う認知機能や運動機能の衰え、老衰に伴う記憶力の減衰等といった理由で、第一線を退く高齢者は多いですが、その豊富な経験で、学習による知識や練習による技能を超えた成果を生み出す人もいます。若者は高齢者から学ぶべき点は学び、また次の世代に伝えてほしいです。高齢者にとっての幸せとは

何でしょう。今、神戸にある人気の小さな結婚式場のことで心温まることがありました。その式場は6畳ほどの広さで、日本一小さな式場として知られています。一番の特徴は、移動式のため全国各地どこでも結婚式を挙げることができることです。予約した若いカップルは、「体が不自由で結婚式に参加できない祖母のために、晴れ姿を見せてあげたいという思いで申し込んだ」と言っておられました。それをご覧になったおばあさまの喜ばれる姿が目につかびます。

このように、高齢者に対するほんの少しの優しさと思ひやりの気持ちが大切ではないでしょうか。高齢者を家族や地域でどのように支えていくか、また、高齢者自身の意欲や能力をどのように生かしていくか、高齢者が人間として誇りを持って生きていけるように、家族や地域で考えていきましょう。(人権教育室)

市長からの手紙

西脇を元気に!!

32



西脇市長 片山象二

子どもたちは西脇市の宝

茜が丘複合施設「みらいえ」では、「NPO法人みなみ会」の皆さんに「みらいえ地域子育て事業」を通じ、放課後や休日に学びや遊びの場を提供するなどして、子育て支援にご尽力いただいております。特に今年の夏休みには、大学生や教職員OBの皆さんにもご協力いただき、市内16カ所の公民館などで延べ65回

にわたって「夏休みの宿題をやっつけよう」を実施していただきました。

人口減少や核家族化、共働き世帯の増加などの社会構造の変化は、家庭の学習環境に大きく影響していると考えられます。私もほとんどの会場を訪れましたが、分からないことを質問し理解を深めながら宿題を進めていく子どもたちを見て、地域や家庭の教育力の重要性、学習環境の大切さを強く感じました。

また、スポーツにおいても多くの子どもたちが全国の舞台で活躍してくれました。日ごろから熱心に指導いただいている皆さまに心から感謝申し上げます。

将来を担う子どもたちは西脇市の宝です。家庭、学校、地域が一体となって大切に、愛情を持って育んでいきましょう。ご協力をよろしくお願ひします。



夏休みの宿題をやっつけよう(合山町公会堂)